

ひばり

東国分爽風学園 市川市立稲越小学校

〒272-0831 市川市稲越3-21-8 Tel 373-8401

<https://ichikawa-school.ed.jp/inagoshi-sho/>

市川市小学校陸上大会 開催！

校長 吉田 直美

さて、前号でお伝えした通り、10月13日（金）に陸上大会が開催されました。本校からは5、6年生合わせて17人が出場し、100メートル走、走り幅跳び、走り高跳びの中で各自がエントリーした種目に出場しました。結果は、6年女子走り高跳びで4位に入賞しました。また、惜しくも入賞を逃したものの、自己新記録をたたき出した子も多く、選手の頑張りを間近で感じることができました。前日まではサブ（補欠）の子も練習にしっかりと参加し、自分の力を高めることができました。

コロナ禍で中止となっていた陸上大会が復活したことで、子どもたちが自分の力を思う存分発揮する機会がまた一つ戻ってきたことをうれしく思いました。

巖島神社秋祭り

10月8日（土）、稲越巖島神社で祭禮が行われました。ぐずついた天候ではありましたが、祭りの時間帯は雨も降らず、地域の方をはじめ、保護者の方や子どもたちも祭りに参加していました。

稲越の巖島神社の歴史を調べてみたところ、神社内に設置している手水鉢（ちょうずばち）には「天保12年奉納」と刻まれているそうです。西暦でいうと1841年。1841年は江戸時代で、天保の大飢饉や大塩平八郎の乱などによる幕藩体制の弱体化を防ぐため、老中水野忠邦が天保の改革を行った年だそうです。「そういえば、中学生のころ歴史の授業でやったなあ」と、思い出しました。巖島神社も、おそらく飢饉による飢餓から農民を救いたい一心で建立されたのかもしれないですね。「稲越」という地名との関わりも気になるところです。



←大塩平八郎

令和の元服式？

巖島神社のことを調べていたら、興味深い話題を見つけました。明治時代以前は稚児から大人になる元服式があり、「自分は今日から大人になる」という自覚を持たせるために、帯刀等が許されたのですが、今の時代にこの「自覚」をどのように持たせるかという話題でした。その中の一つに「呼び方」が挙げられていました。①自分のことを名前ではなく「僕は・私は」と話す。②他人と話すときは親のことを「父は」「母は」と話す。

なるほど。そういえば私も、「1年生になったのだから、直美はね、ではなくて私はと言いなさい」「3年生になったのだから、お父さんお母さんではなくて、外では父は・母は、と言いなさい」と親から教わり、それだけでちょっと大人になった気がしたのを思い出しました。